

たまねぎのべと病に注意！

1 発生状況

- (1) 3月上旬の発生予察調査において、越年り病株(図1)が複数ほ場で確認され、早生系品種では2次感染株(図2)が確認された。
- (2) 向こう1ヶ月の気温は平年より高く、降水量は平年並または多いと予想されており、今後、まん延の恐れがある。
- (近畿地方1カ月予報) 気温：高い確率70%、降水量：平年並または、多い確率ともに40%



図1 越年り病株



図2 2次感染株

2 生態と発生条件

- (1) 作物残さなどから、11~12月に苗床や定植後のほ場で感染する。
- (2) 感染した株は越年し、2~3月に病徴を示し、葉は萎縮、黄化し、つやがなく、ねじ曲がり、硬くなる(図1)。越年り病株は1,000株に数株の発生でも2次感染株の多発につながる。
- (3) 越年り病株が感染源となり、3~5月に温暖で降水量が多いと2次感染株(通常のべと病株)の発生が増え、急速にまん延する(図2)。
- (4) 気温6~19℃で胞子を形成する。最適気温は13~15℃。
- (5) 気温15℃前後、湿度90%以上で胞子が発芽する。
- (6) 胞子は通常100m、強風時はさらに広範囲に飛散する。

3 防除

- (1) 感染前に予防剤を散布することが重要である。発生を認めたら、発病株を抜き取った後、治療剤を散布する(表)。
- (2) 抜き取った発病株は、次年度の感染源となるため、集めてほ場外に持ち出し、処分する。

表 たまねぎ べと病の防除薬剤(例) 散布にあたっては農薬のラベルを確認すること。

薬剤名	系統(FRAC)	種類	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
ジマンダイセン水和剤・ ペンコゼブ水和剤	ジチカ-バメト(M3)	予防	400~ 600倍	収穫3日前まで	5回以内
バトファイター顆粒水和剤	その他(27) CAA(40)	治療 治療	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
リドミルゴールドMZ	ジチカ-バメト(M3) フェニルアミド(4)	予防 治療	500~ 1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ザンプロDMフロアブル	CAA(40) QoSI(45)	治療 予防	1,500~ 2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ホライズンドライフロアブル	その他(27) QoI(11)	治療	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤	クロロニトリル(M5) CAA(40)	予防 治療	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
メジャーフロアブル	QoI(11)	治療	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

注) ジマンダイセン水和剤及びペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZなどに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、5回以内。バトファイター顆粒水和剤及びプロポーズ顆粒水和剤などに含まれる成分ベンチアバリカルブイソプロピルの総使用回数は、3回以内。